

## ごあいさつ



経営管理委員会会長

港 義弘



代表理事理事長

岡山 勝

皆さまには、平素より香川県信用農業協同組合連合会ならびにJAバンク香川をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。併せて、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、感染された方々やそのご家族、不安のなかにおられる方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

本年も当会をより深くご理解いただくため、当会の経営方針、業務内容、最新の業績等についてまとめた「JAバンク香川信連 DISCLOSURE 2022」を作成いたしました。ぜひ、ご一読いただき、当会に対するご理解をより深めていただければ幸いです。

当会は、昭和23年8月の創立以来、香川県農業の発展と農家経済の向上はもとより、地域金融機関として地域経済・社会の繁栄に貢献する金融機関を目指して業務を展開してまいりました。これもひとえに皆様のご愛顧、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、令和3年度のがわが国経済は、景気の持ち直しの動きが続いたものの、新型コロナウイルス感染症の変異株の急速な感染拡大により、個人消費の持ち直しに足踏みがみられ、加えて、ロシアのウクライナへの侵攻等による原油・生産資材等の高騰、ならびに米国のインフレ抑制を優先する金融政策による急激な円安等の影響を受けて、先行き不透明感を強めています。また、JA自己改革については、農業生産基盤の弱体化やコロナ禍を契機とした価値観の変容、急速なデジタル化などJAグループを取り巻く環境が大きく変化するなかで、10年後のめざす姿（持続可能な農業の実現、豊かでくらしやすい地域共生社会の実現、協同組合としての役割発揮）の実現に向けて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標への取組みを着実に実践し、不断の自己改革に引き続き取り組んでいくこととしています。一方、信用事業については、超低金利政策が長期化するなか、前述の経済情勢等に加え、人口減少・少子高齢化の進展等による事業基盤の縮小、さらには地球規模の社会・環境問題への関心の高まりなど時代の転換期を迎えています。

このようななか、当会は会員の負託に応えうる持続可能な経営基盤の確立とJAバンクシステムの充実を最優先課題として取組み、会員への還元機能の充実、安定的・継続的収益の確保ならびに県域機能の充実とガバナンスを中心とした業務運営体制の強化に取り組んでいます。

また、今年度から10年後の将来像を見据えたうえで、向こう3年間において我々が取り組むべき、新たな「JAバンク香川中期戦略(2022～2024年度)」がスタートしており、多様化する「農業」「くらし」「地域」の持続性を確保し、組合員・利用者目線で問題解決に取り組むため、JAバンクならではの総合事業を活かした金融仲介機能をそれぞれの領域で発揮することで価値提供を進めてまいります。

今後とも当会は地域金融機関としての社会的役割と責任を充分認識したうえで、経営資源の有効な活用および適切な配分を行い、JAバンク機能の一層の発揮に努める所存でございますので、更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

香川県信用農業協同組合連合会

経営管理委員会会長 港 義弘

代表理事理事長 岡山 勝